# はじめに

本書は、初めてAIを授業に活用しようと考えている先生方に向けて書いた一冊です。そのため、基本操作や活用方法の“手順”を、丁寧に順番を追って執筆しました。

私自身、説明書などを読む際、少しでも手順が飛んでいたり、解説が省かれていたりすると、その段階で、フリーズしてしまうことが多々あります。そのようなことのないよう、本書では、1つ1つの“手順”が、できるだけ次につながるよう意識しました。どうか、パソコンの隣に本書を置いて、一緒に体験していただければと思っています。

私たちの生活は、AI（Artificial Intelligence）抜きには考えることのできない時代になってきました。私たちはAIとの共存の時代にいるのだと感じます。それは学校においても同様です。教育活動においてAIに頼ったり、また、私たち自身が、積極的にAIを利用したりする時代に確実になっていきます。

同時に、私たちには、AIの活用力を、生徒たちに教える責任があります。これからの未来を生きる生徒たちにとって、AIは大事な技術です。その使い方を教え、また、危険性を理解させ、そして共に生きる術を教える仕事が私たちにはあると考えます。

さて、2022年11月にChatGPT（OpenAI社）が登場してから、AI革命と言われるほど、英語教育において、AI活用の幅が広がりました。それはChatGPTをはじめとする対話型の生成AIが登場したからです。尋ねたいことがあれば、チャットで質問すると答えてくれます。もし、その答えに満足がいかなければ、質問を追加し、新たに答えてもらうこともできます。まさしく、分からないことを生徒が教師に尋ね、教師が教えてくれるかのように答えてくれます。

教材や問題など何か作ってもらいたければ、作成してくれます。画像も作成してくれます。音声で会話もできます。英文の添削もしてくれます。それが24時間可能なのです。

こうした対話型の生成AIは、ChatGPTの他、Copilot（Microsoft社、2023年2月）やGemini（Google社、2023年12月）、DeepSeek-R1（DeepSeek社、2025年1月）と、その開発はとどまることを知りません。このように、対話型の生成AIが日常となる時代が来ているのだと思います。

ただし、受け取った答えや情報がすべて正しいかどうかについては責任が持てません。複数のAIで確認したり、ウェブ検索したりし、その信ぴょう性の確認は必要です。しかしながら、今までできなかったことが、AIによりできる幅が増えたことは間違いありません。あとは、それらを私たちが英語の授業で活用することです。

また、MicrosoftのReading Progress（Teams for Education）の存在も、本書の執筆のきっかけとなりました。生徒の音読が、AIにより自動採点される時代が来たのです。もちろん、評定につなげる評価は教師がきちんとしなくてはいけませんが、Reading Progressにより、今までできなかった日常の音読評価の可能性が広がりました。これもAIのおかげです。

本書のコンセプトは、“明日の授業から使える”“初めての人でも分かる”“無料版でここまでできる”です。“初めての人”を対象にしていますので、できるだけ無料版でできるものを取り上げました。

そして、基本的な操作方法を、実際の画面を提示しながら丁寧に記述しました。明日の授業で役に立つことを願っています。

本書がきっかけで、英語授業でのAI活用に興味を持ってもらえたら幸いです。

令和7年6月

岐阜大学教育学部　瀧沢広人

# CONTENTS


はじめに …… 2

## 序章

個別最適な学びを実現する！
### AIで変わる英語授業の新常識

1 AIが教師の味方に！　英語授業の可能性 …… 10
2 楽しくアップデート！　新時代の英語教育 …… 12
3 大事なのは考える力！　AIの上手な使い方 …… 14
4 英語授業の可能性が広がる！　便利な機能を完全攻略 …… 16

COLUMN 1 生徒に伝えるAI活用のコツと学習ルール …… 18

## 第1章

簡単操作でどんどん使える！
### 8つの基本スキル

1 スキル1　評価する …… 20
2 スキル2　添削する …… 22
3 スキル3　翻訳する …… 24
4 スキル4　音声を読み上げる …… 26
5 スキル5　尋ねる／情報を得る …… 28
6 スキル6　作成する …… 30
7 スキル7　画像を作る …… 32
8 スキル8　会話する …… 34

COLUMN 2 音声読み上げのツール …… 36

## 第2章

4技能5領域にバランスよく使える！
### ChatGPTの基本操作と活用

1 ChatGPTを設定しよう …… 38
2 ChatGPTの基本操作を知ろう …… 40
3 音声会話を始める …… 42
4 音声設定を行う …… 44
5 チャットをコピーする／削除する …… 46
6 プロンプトの一部を修正する …… 48
7 プロンプトをChatGPTに教えてもらう …… 50
8 プロンプトをいろいろ試してみよう …… 52
9 英文を作ってもらう …… 54
10 設問を作ってもらう …… 56
11 モノローグ文を対話文に変換してもらう …… 58
12 単語を指定して英文を作ってもらう …… 60
13 物語の続きを考えてもらう …… 62
14 物語の終わりを考えてもらう …… 64
15 要約文を作ってもらう …… 66
16 英単語リストを作成してもらう …… 68

17 英単語テストを作成してもらう …… 70
18 英単語の定義を作ってもらう …… 72
19 推論発問や評価発問を作ってもらう …… 74
20 教科書の本文を長くしてもらう …… 76
21 文法問題を作ってもらう …… 78
22 文法の活用力を育てる問題を作ってもらう …… 80
23 ディスカッションのテーマを作ってもらう …… 82
COLUMN 3 ChatGPTの授業内利用 …… 84

## 第3章

音読やプレゼンテーションの評価に最適！

# Teams for Educationの基本操作と活用

〔Reading　Progress〕

1 始める前の準備（教員側） …… 86
2 音読の課題を設定する（教員側） …… 88
3 音読の課題を割り当てる（教員側） …… 90
4 音読の課題を提出する（生徒側） …… 92
5 音読の評価結果を確認する（教員側） …… 94
6 音読のフィードバックをする（教員側） …… 96
7 プレゼンテーションの課題を設定する（教員側） …… 98
8 プレゼンテーションの練習をする（生徒側） …… 100
COLUMN 4 AIが生徒の音読を評価する時代！ …… 102



## 第4章

生徒が「話す・書く」活動に積極的になる！

# Canvaの基本操作と活用

1 Canvaの基本機能と登録 …… 104
2 Canvaの基本操作 …… 106
3 「テンプレート」から作る …… 108
4 「白紙」からワークシートを作る …… 110
5 デザイン・文書を開く／保存・ダウンロードする …… 112
6 「プレゼンテーション」を作る …… 114
7 「マジック作文」で問題を作る／ドキュメントからプレゼンを作る …… 116
8 「CanvaAI」で画像を作る …… 118
9 共有する／共同編集を行う …… 120
COLUMN 5 「マジック生成」でアニメを作る …… 122

## 第5章

学習効果が高まる！

# 音読さん／Microsoft Designer／DeepL Writeの基本操作と活用

〔音読さん〕

1 基本操作を確認しよう …… 124
2 音読さんで発音指導する …… 126
3 音読練習からヘボン式ローマ字の導入に …… 128

〔Microsoft Designer〕

**4 画像生成ツールを使い、アウトプットの練習に** …… 130

**5 写真の背景を削除し、教材にする** …… 132

**6 絵を用いて、言語活動を仕組む** …… 134

〔DeepL Write〕

**7 英文添削ツールで時短を図ろう** …… 136

**8 書き換え機能で表現の幅を広げる** …… 138

**9 イギリス英語とアメリカ英語の違いを知る** …… 140

COLUMN 6 **音声文字起こしツールで、発音練習** …… 142

**引用文献・参考文献** …… 143

本書は、2025年6月11日までの情報を基に、ChatGPT、Microsoft Teams、Microsoft Copilot、Microsoft Designer、Canva、音読さん、DeepL Writeについて解説しています。ただし、各社とは提携しておらず、後援等も受けておりません。発行後に各社のサービス、操作方法、画面表示などの変更があり、本書の掲載内容どおりには操作ができなくなる可能性があります。

また、本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としており、本書を参考に操作される場合はご自身の責任と判断に基づいて行ってください。本書の運用により想定していた結果が得られない場合や直接的・間接的な損害が発生した場合は、弊社および著者はいかなる責任も負いかねます。予めご了承ください。

なお、本文中に記載されている会社名、製品名は、すべて関係各社の商標または登録商標、商品名です。本文中には™および®マークは記載しておりません。

スキル 6

# 6 作成する

## AIに教材作成をお願いする

生成AIの得意技と言えるのが、英文や問題などの作成機能です。教師が作ると膨大な時間が必要ですが、AIは瞬時に作ってくれます。教師の働き方改革も踏まえ、AIを効果的に活用していきましょう。

例えば、読むことの力をつけたいと考えたとします。読む力をつけるには、とにかく読ませなくては力がつきません。それも１回や２回読んだからといって、力がつくものではありません。技能は、ある程度の繰り返しが必要です。初見の文を読むことに慣れさせるためにも、生成AIにリーディング教材を作ってもらいます。

**プロンプト**

Can you make a short story about a boy who experienced horror? Write the story in a simple English below CEFR A1 within 70 words.

**生成された英文**

One evening, a boy named Ken went into the forest to find his lost dog. It was dark, and the trees looked scary. Suddenly, he heard footsteps behind him. Ken turned around, but no one was there. His heart raced. Then, a shadow appeared. Ken ran fast and found his dog. They quickly went home, and Ken never went to the forest alone again.



## 設問と解答例も作ってもらう

読ませて終わりにならないよう、設問を作ってもらいます。

**プロンプト**

Can you make 5 multiple-choice questions about the story to check the students' understanding?

**生成された設問**

1．What was Ken looking for in the forest?
a）His phone　b）His book　c）His dog　d）His friend
2．What did Ken hear behind him in the forest?
a）A bird singing　b）Footsteps
c）A dog barking　d）Wind blowing
3．What did Ken see after hearing the footsteps?
a）A big tree　b）A shadow　c）A bright light　d）His dog
〈以下略〉

その後、解答と解説も作ってもらいました。

## 授業準備に役立つ作成例

教師がイチから作るのではなく、たたき台として作成してもらったものを、生徒の実態に合わせ修正していくと、時短で教材準備ができます。不十分であれば、再度依頼を繰り返すこともできます。その他、次のようなものを作成するとかなりの効率化と時間短縮になります。

□定期テストのリスニング問題：スクリプトを作成し、音読さん（p.26参照）で音声にする
□教科書本文の要約文、タイトル作成、日本語訳、並べ替え問題
□教科書本文のダイアローグ文を、モノローグ文に作り替える
□スピーチ文やプレゼンの例、ディスカッションで使える表現集
□単語リスト、文法問題、QAシート、３ヒントクイズ　等

10 ChatGPT

# 設問を作ってもらう

## 問題を作る

英文作成には、タスクが必要です。タスクとは、簡単に言うと「課題」です。意味のある課題に取り組むことで、読むことの力を高めていきます。そのタスクのために必要なのが「設問」の作成です。

次のようなプロンプトで、設問を作ってもらいましょう。

**答えの選択肢が４つあるQA問題のプロンプト**

Will you make a four-question quiz about the story with four multiple-choice options?

**True or False問題のプロンプト**

Can you create a true or false quiz based on the lesson?

## 答えが分かる部分に線を引かせましょう！

生徒には、答えが分かったら、その答えがどこに書いてあったのか、本文中に線を引かせます。

線を引かせることが頭の整理となり、正確な読みと理解につながります。

答えが分かる部分に線を引くことを習慣としましょう。

右ページのプリントは、本文の情報を取り出すというタスクの作成を依頼した結果、出力されたプリントです。



中学２年生
多読プリント No.1　　Name（　　）

### ケンが好きなことは?

Ken is a Japanese boy. He loves kites. One windy day, he went to the park with his red kite. Ken ran fast, and the kite flew high in the sky. “Wow! It’s so high and far!” he said. The wind blew strong, and the kite danced in the air. Other children watched and clapped. Ken felt happy.　（58w）

Questions

**1. What is Ken’s favorite thing?**

a）Flying planes　b）Playing soccer　c）Kites
d）Swimming

**2. Where did Ken go with his kite?**

a）To the beach　b）To the park　c）To the store
d）To school

**3. How did Ken feel when the kite flew high?**

a）Sad　b）Excited　c）Angry　d）Scared

**4. What did other children do when they saw Ken flying the kite?**

a）They ran away.　b）They laughed.　c）They clapped.
d）They ignored him.

Plus One 答えが分かる部分に線を引きましょう！

# 6 Reading Progress

# 音読のフィードバックをする（教員側）

## 評価画面の機能

左上①のビデオ画面で、生徒の音読を聞くことができます。

②には、〔正解率〕が出ます。

③のマーカー部分では、誤発音、省略、挿入、繰り返し、自己修正が色分けされて示され、音読の際のミスがチェックされています。

④に、生徒へのコメント入力欄があります。ここに教師からのアドバイスなどを入力します。

⑤の〔発音の認識感度〕は、感度を高くしたり低くしたりすることができます。高くすると評価が厳しくなります。

⑥の〔返却〕で、④のコメントとともに生徒にフィードバックすることができます。

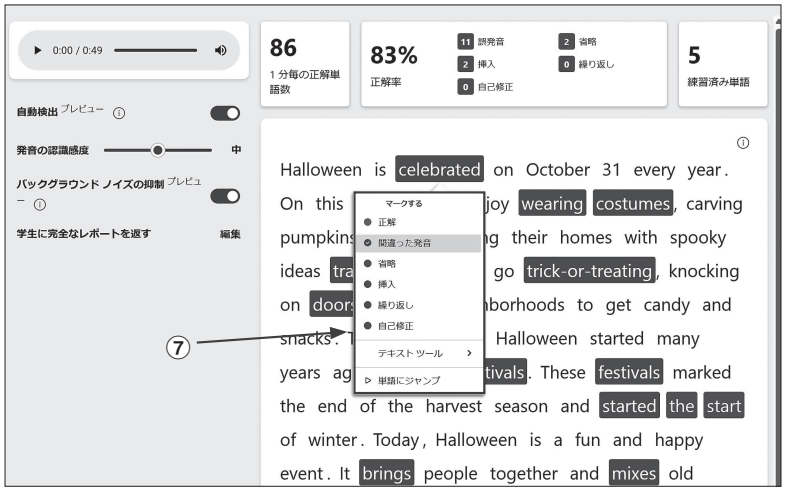
## 評価を修正する

生徒の音読を聞き、評価を修正することができます。

例えば、AIが「誤り」と判断した語彙でも、教師が生徒の音読を聞いて、正しいと判断すれば、評価を修正できるのです。

下図のように、マーカー部分「celebrated」の発音を聞いて正確に言えていた場合、「celebrated」の語をクリックすると、⑦のようなウインドウが出てきます。ここで評価を変えることができます。

逆に、AIが正解と評価した部分でも、教師側が発音が異なっていると判断した場合、該当の語の上でクリックすると評価を変えることができ、色も変わります。




このように、AIの評価をベースに教師が修正を加えることで、より正確な評価につながります。

8 Canva

# 「Canva AI」で画像を作る

## 「Canva AI」で画像を生成する

Canvaでは画像生成を行うこともできます。

無料版では、月に20回の画像生成が可能で、１回につき４枚作成してくれます。

ホーム画面の①の〔Canva AI〕、または②の〔Canva AI〕から作成していきます。

## 説明文を入力する

〔Canva AI〕をクリックすると、右ページの画面になります。

③に作成してもらいたい絵の説明文を入れます。ここは日本語でも英語でも大丈夫です。



④の〔→〕（送信）をクリックすると絵が４枚作成されます。

好みの絵を１つ選び、例えば次のように話題を生徒に提供します。

Look at this picture. This is my ideal house. I want to live in a big house in the future. Look! There is a swimming pool. My grandchildren are swimming in the pool, and they look very happy. I like traveling very much, so there is a private jet in my garden. I can go anywhere from my house. This is my ideal house. What's your ideal house?

## 英文を書いてから、「Canva AI」に頼む

生徒に、My Ideal House.をテーマとして英文を書かせ、それをそのまま「Canva AI」に打ち込ませます。

画像生成を行い、うまく理想の家が出るか楽しめる活動です。

生徒が作文した英文がより正確に、適切に書かれるほど生徒が思う理想の家の絵に近づきます。絵を見てどのように英文を作ればよかったのか振り返らせることができます。

Canvaの様々な機能を使いプレゼンの発表資料へと仕上げさせ、発表活動にもっていきます。